

企画 4 | 震災・復興の経済分析・心理分析

団体の名称

立花・茂木ジョイントゼミナール

代表者氏名・学部学科名等

大川 博之
商学部国際ビジネス学科 3年

実施期間・日程

平成23年5月6日～11月11日

実施内容

1. 公開討論会「震災・復興の経済分析・心理分析」

<日時> 2011年7月13日(水) 16時20分～19時00分

<場所> 文京キャンパス C501教室

私たち立花・茂木ジョイントゼミナールは、東日本大震災を通じて見えてきた日本人、および日本産業の強みや将来の姿を多くの方々と共有したいという思いから、公開討論会を開催しました。日本人として、そして日本産業としての強みをいかに生かし、弱点をどのように改善していくかということを通して、少しでも多くの方が共有できれば、復興をはじめと日本の将来にとって、大きな一歩になると思ったからです。

この公開討論会を行うにあたり、人間心理を研究する立花ゼミと、国際経済・国際貿易を専門とする茂木ゼミが合同で研究・分析することで、多角的に考え議論することを目的としました。

両ゼミナールはそれぞれ2つ計4つのグループに分かれ、各グループでテーマを決め研究・分析・プレゼンテーションを行いました。質疑応答では、特に震災後多くの関心を集めたエネルギー問題やボランティアについての議論が盛んに交わされました。討論会の最後には、3名のゲストコメンテーターと両ゼミナールの指導教員である立花先生、茂木先生より講評をいただきました。

<テーマ・担当者一覧>

- ・「危険な原発の必要性—日本のエネルギー問題を考える—」
茂木ゼミナールAグループ
4年:猪熊健太(代表) 済賀雄大 倉内宮桜
3年:中西賢 土肥翔
2年:吉江由紀子 遠田早紀 荒幡優 笠原浩平

・「浜岡原発停止は、なぜ歓迎されたか—国民の危険への意識—」
立花ゼミナールAグループ

- 4年:市川尚太 桑澤卓実 高云峰
- 3年:大藤省吾(代表) 田中雅弘 橋本舞
- 2年:峯崎雅典 金澤成美 鄭燕燕

・「なぜボランティアに行くのか」

立花ゼミナールBグループ

4年:星野真吾 今井喜宙

3年:厚川絵里(代表)上野善治 五味道晴 清野雅貴

2年:田中啓介 蔭木聡美 田中瑞穂

・「震災後に産業空洞化は加速するか」

茂木ゼミナールBグループ

4年:酒巻卓(代表) 萩原雄太 道脇未緒

3年:春原貴道 大川博之



公開討論会のポスター



約70名の方が参加した文京キャンパス会場

2. ワールドカフェスタイル討論会

<日時> 2011年11月11日(金) 16時5分～17時35分

<場所> 文京キャンパス C514教室

7月の公開討論会とは別に、11月に立花・茂木両ゼミナールでワールドカフェスタイルの討論会を開催しました。

ワールドカフェとは「決めない会議」とも言われ、少人数に分けられたテーブルで自由な意見交換をし合い、カフェのような落ち着いた雰囲気参加者が意識を共有できる会議手法の一つです。何かを決定するというより、参加者それぞれの考え方や意見を皆で共有し、相互理解を生み出すことを大切にしたい場面で利用されます。

<テーマ>

- ・「自分の考え方や意識が、震災の前後でどう変わったか」
- ・「震災から半年たった今、学生としてできることは何か」

成果

1. 公開討論会(7月13日)

公開討論会では、一般の方々から学生まで約70名の方々にご参加いただきました。東日本大震災から4カ月しか経過していない中での開催はテーマの選定も難しく、震災関連のデータも十分には揃っていませんでした。しかし、直前まで発表内容の改善やプレゼンの練習を何度も重ね、無事盛会裡のうちに終えることができました。

この企画の大きな特徴は、同じ政経学部から専門の異なる2つのゼミナールが合同主催したこと、学内外よりお招きした3名のゲストコメンテーターです。人間心理を扱う立花ゼミと国際経済を専門とする茂木ゼミが合同で討論会を開催することで、共通のテーマに様々な方向からの議論をすることができました。また、コメンテーターの方々からはそれぞれの職業や立場に応じたご講評をいただきました。討論会の感想に加え、今後の復興や原発を含めたエネルギーに関する各々の思いも聞くことができ、参加者からは「一国民として、これからの日本を見つめる良い機会となった」という声をいただきました。

<コメンテーターからのご講評>

・渡邊隆俊氏(愛知学院大学商学部教授)



豊橋技術科学大学工学部卒業、同大大学院工学研究科修士課程及び帝塚山大学大学院経済学研究科博士前期課程修了(工学及び経済学修士)。甲南大学講師を経て現職。

[講評] 震災・復興を東北だけの問題ではなく、日本や世界の問題、身近な問題として捉えることができていた。このような経験から自ら考え、多様な意見を集約でき、まさに「絆」が学生間で強くなったと考える。

・猪熊一美氏(株式会社木村管工定検事業部)



株式会社ダイシン勤務を経て2008年より現職。東日本大震災後は、東京電力福島第一原子力発電所で働く作業員への退城手続き、内部被曝の検査等に従事。

[講評] 3月11日の地震発生時は会議中だったが、直ちに原発から作業員全員を避難させることができた。原発への話題が薄れる中、このような会を取り上げ、皆さんが原発を含めたエネルギーに関し、とても良く調べていることに感心した。

・日野川静枝氏(拓殖大学商学部教授)

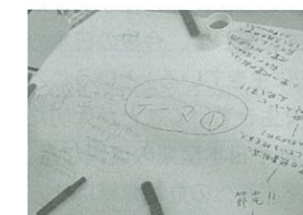


弘前大学理学部卒業。現在、拓殖大学商学部教授、特定非営利活動法人科学史技術史研究所研究員。専門は科学史・技術史。『放射能汚染—どう対処するか』(共著:花伝社 2011)など、著書多数。

[講評] 原発については原子爆弾を作れることを意味し、さらに日本は使用済み核燃料の処分方法に問題を抱えている。このような危険を更に考えなくてはならないと考える。教育は双方向であり、世代を超えて互いに異なる意見をぶつけ合っこそ、本当の教育が実践できると私は考える。久々に若い力を感じることができる、貴重な時間を持つことができた。

2. ワールドカフェスタイル討論会(11月11日)

この討論会では、震災から8カ月、公開討論会から4カ月が経過し、改めて震災前後の意識の変化や今学生にできることを皆で議論しました。「これからは更に、原子力発電やエネルギー全般への正しい知識を身につけていくことが必要」という震災直後から継続しているエネルギー問題についての話題や、「就職活動の一環としても、震災後に需要が生まれた業界・企業、衰退した業界・企業の違いを把握しておく」など、震災被害が収束にむかう中で再び意識が高まりつつある、就職活動についての意見を皆で共有することが出来ました。



横造紙に自由に各々の意見や考えを書き進めていきました



他のテーブルもまわり、皆で意見を共有していきま

反省点・感想及び意見

1. 公開討論会(7月13日)

茂木・立花両ゼミナールの合同で各ゼミの3年生を中心に進めていきました。合同ということで人数が多くなり、ゼミナール間での連携や就職活動中の4年生、キャンパスの違う2年生などのゼミナール生との連携がうまくできず、前日まであたふたしていました。今回のジョイント・ゼミでは地域の方々にも参加していただこうと思い、公開という形で行いましたが、上記でも話した通り準備がうまく行かずポスターを作製したのですが、告知期間がだいぶ短くなってしまいう結果となってしまいました。計画的に告知期間を長期間設けることができれば、もっと多くの一般の方に参加していただけたと思います。

当日も問題がありました。予約していた教室が確認した教室とは違った構造で、教室変更をしなければいけなかったり、全員が流れや仕事を理解していなかったり、当日の変更への臨機応変な対応がうまくできなかったりといった不手際はです。

全てが大成功とは難しいですが、今回のような規模でのシンポジウムは初めて経験するゼミナール生が多く、3.11の震災、

そして復興をテーマに今回の目的である「情報・意識の共有」を僅かながらでも広めることができたのではないかと思います。

2. ワールドカフェスタイル討論会(11月11日)

第二回ではそもそもの準備期間が短かったのですが、テーマを決めることに時間がかかってしまいました。経済面と心理面の両方でどのようにアプローチをかけていいのか、時間だけが過ぎて行きました。また、当日に注文していた模造紙が届いていないことが分かり、代用品を用意するなど仕事が増え、結局は間にあったのですが時間通りに始めることができなかつたりと戸惑いました。さらにワールドカフェという形式を利用したのですが、「ワールドカフェってなに？」という感じで、事前に説明を受けてもイメージがうまく湧かず、当日始まっても慣れていないことから議論が弾むまでに時間がかかりました。

問題も多々起こりましたが、新しいことに取り組むことは新鮮でゼミナール内だけでなく、他ゼミナールはじめ多くの方と議論や協力ができる機会は多くないので、いい経験ができたと思います。

す。

そのためにも、7月と11月の討論会で学んだことや感じたことを、まずは参加者一人ひとりが日々の生活の中で意識していただければと思っています。たとえば、人が生活を送る上で欠かせない電気・ガスなどのエネルギーは、何によって生産されどのような方法で家庭まで届くのか、少し具体的に考えてみる。または、より大きな視野をもって、今年7月に発生したタイの洪水被害は東日本大震災と比べてどの程度になるか考えることも、今後の日本産業を考える上で非常に大切だと思います。今後の活動について現段階では未定ですが、今回のテーマについて引き続き勉強会を開催したり、外部の人々や団体との接触を試みるなど、さらに広い範囲での活動ができればと思っています。

今後の計画・展望

私たちは今回の活動を通じ、東日本大震災後の日本を様々な視点から検討していくことができました。そして何より、これまで日本を支えてきた世代の豊かな経験をもとに若者が信念を持って行動していくことこそ、今後の日本の持続的発展や成長につながっていく、ということを強く感じることができました。

震災を生き延びた私たちにできることは、この経験を将来の世代へも教訓として残すことです。そして、今後の日本の復興や発展に際し、常に「地震大国に生きている」ということを忘れず、むしろそれを前提に日々生きていくことが大切だと思います。現在急速に進む被災地や日本産業の復興など、時間の経過とともに薄れてゆく自然災害への危機意識は仕方ないものです。しかし、今回の震災で失った多くのことを、私たちは沢山の教訓として学んでいかなければならないので

支出報告書

支出総額	200,543円
給付額	200,000円

[内訳]

品名	単価	個数	小計
(単位円)			
<交通費>			
茂木ゼミ(準備・打ち合わせのため要した交通費)			19,930
立花ゼミ(上記に同じ)			15,940
<物品費>			
コピー代			2,800
ネームプレート	176	37	6,518
インクジェット			697
文具代(コピー用紙、テープ、マッキー)			1,637
模造紙	50	8	400
<ポスター代>			
A2ポスター	811	25	20,270
デザイナーへの御礼			15,000
<コメンテーターへの御礼等>			
御礼	20,000	3	60,000
御車代	20,000	2	40,000
御食事代	3,500	1	3,500
<その他>			
コメンテーター・先生方への御茶代			1,778
お茶菓子代・紙コップ			4,070
会合費(デザイナーとの打ち合わせ等)			8,003
			合計 200,543円